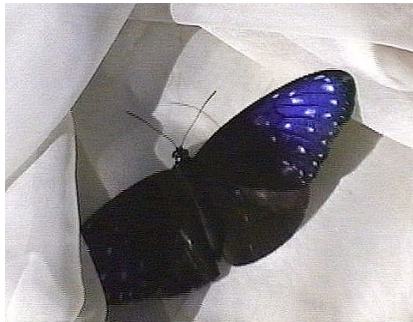


1995年10月29日 沖縄本部町平敷

この日も至るところ名護城跡で聞いたセミがハイトーンの金属音を響かせており『チャンスチャンス』という風にも聞き取れる。雨で湿った赤土の路面には数頭のイシガケチョウが吸水活動に余念がない。黒い大型のコノマチョウらしき姿がふわふわとブッシュに消えていったがウスイロ、クロコノマいずれであったのかは不明。1993年には真剣にネットインを図ったリュウキュウミスジもこの時期では発生が少なく、もはや長居は無用。きれいに舗装された広い林道の登りに移る。道路沿いにイシガケチョウがやたらと多い。まるで道案内をするかのように、路面とほぼ平行して飛び交う。いちいちネットインしていたらとても先には進めないであろうほどの数である。林道沿いにはシロノセンダングサの白い花が点々と続いている。そのやや遠めの位置に夢中で求蜜している黒っぽいマダラチョウらしき姿が目に入る。ヤエヤマムラサキか、それともマダラチョウの仲間か。マダラチョウだとすれば迷蝶の可能性が大きい。近づくとうみてもマダラチョウである。心臓の鼓動の高鳴りを感じながらネットに納める。実にあっさり迷蝶をしとめる。ツمامラサキマダラ美しいである（この時点で、本種がすでに沖縄本島から八重山諸島各地に広く定着していることをまだ知らない）。これまでも迷蝶として採集されたこと



名護乙羽岳 Oct.29,1995 ツمامラサキマダラ♂

が多い蝶なので画期的というわけではないが、まったく予測をしていなかった種類だけにたまらなくうれしい。とてもいい気分です歩を進めダンプカーが出入りすると思われる三叉路に出る。その角地にイシガケチョウの小集団

吸水が見られ、近づくとうみても白い紙ふぶきのように舞上がる。この三叉路を左に進む赤土の道はダンプカーが出入りする工事用の道路らしいので、前回と同じ舗装道路にこだわって進むと、背の高いタイワンヒヨドリバナの白い花が咲くコーナーで、まぎれもなく複数頭のツمامラサキマダラが求蜜している場面に出くわす。今度は求蜜中の蝶をゆっくりとビデオに記録する余裕もあり、いぜん迷蝶には違いない（と、この時点でまだ信じている）ツمامラサキマダラを複数頭しとめることができ喜びが増す。台風などの風に乗って迷い込んだ母蝶からの次の世代が大量発生したものらしく、このあと峠にいたる林道のあちこちで、ごく普通種かのごとくに本種をたくさん採集できてどうやら迷蝶とはいえない発生だと思われ知らされる。伊豆味の町中に入ってからランタナやタイワンヒヨドリバナなどの花上に見られるし、古嘉津宇（こかつう）村落にも相当数をみる。多くの場合、雌雄同数が同じところで求蜜している。日本蝶類学会誌 *Butterflies* (1995:No.11, p.48-54; 『迷蝶アラカルト』) には1994年にも土着を思わせる相当数の発生が認められた、との記載があって、今回の発生状況は明確な土着を裏づけるものだと考えられる。



名護乙羽岳 Oct.29,1995 ツمامラサキマダラ♀